

全労金2019春季生活闘争ニュース・第22号

《合意速報No. 4》

沖縄労組が金庫との団体交渉で、「基本合意」を表明しました！

沖縄労組は、3月27日9時から、金庫と「団体交渉」を開催し、基本合意を表明しました。要求と回答は以下の通りです。

		要 求		回 答	
		正職員	準職員	正職員	準職員
基本賃金		1 ～ 2 等級2,000円 3 等級初任額1,000円 の引き上げ	7,000円 の引き上げ	1 ～ 2 等級 1,000円	2,000円
一時金		4.2	4.2	4.2	3.7 + 10,000円
昨年実績		4.05	3.55	4.05	3.55
安定雇用	無期転換	—	(実現)	—	(実現)
	登用制度		条件見直し		要求通り
最低賃金		時間額1,000円、日額7,330円、 月額154,000円への引き上げ		時間額970円、日額7,120円、 月額149,400円へ引き上げ	
雇用環境	ジョブ・リターン	(実現)		(実現)	
	年休積立	(実現)		(実現)	
	私傷病休職	—	(実現)	—	(実現)
公正処遇	年休	—	(実現)	—	(実現)
	生休		(実現)		(実現)
	母性保護		(実現)		(実現)
単組独自要求		借上住宅の上限金額の引き上げ 育児に関する所定労働時間短縮を小学校3年生まで		借上住宅：5,000円の引き上げ 所定労働時間短縮：要求通り	
		—	子ども手当、慶弔見舞金 永年勤続表彰	—	子ども手当：要求通り 慶弔見舞金：要求通り 永年勤続：継続協議

団体交渉において、金庫からは「回答期限日内で基本合意に達することができたことに感謝したい。限られた期間の中で集中的に労使が真摯に交渉した結果であると受け止めている。2018年度の職員の奮闘に改めて敬意を表したい。金庫を取り巻く環境は厳しい状況に変わりなく、金利政策も当面維持され、組織率の低下、少子高齢化といった社会環境の変化もある状況下で役職員が一丸となり頑張った結果であると受け止めている。今後とも職員の奮闘をお願いしたい。2018年度は、年度途中の退職者が増加し、金庫の大切な人材が失われていることに課題認識を持ちつつ、人材育成が重要であると考えている。沖縄ろうきんが未来永劫会員から信頼され、発展的な事業運営をするうえで、職員の安全衛生を重要視している。今後、安全衛生の観点も含め、さらに職員が安心して

生き生きと働き続ける環境整備を労使で取り組みたい。今後とも労使間で情報を共有し、意見交換を重ね、コミュニケーションを図ることで、職員、組合員をリードしていく役割を果たしていきたい」等の見解が表明されました。

伊川闘争委員長は、「2019春季生活闘争は、2009春季生活闘争以来10年ぶりに正職員の賃金改善をはじめ、全労金組織全体で統一闘争に取り組んできた。この間の真摯な交渉と誠意ある対応に感謝したい。基本賃金・最低賃金は、要求どおりではなかったが、基本賃金を改善することができた。また、年間一時金は、同一労働同一賃金を踏まえ、正職員と準職員の同一月数を求めた。結果として、準職員等の格差を縮めることはできなかったが、金庫との最終交渉でプラス10,000円が出されたことは、雇用形態による不合理な格差の是正に応えた結果と考えている。そのほか、単組が要求した7項目に対して、すべて前向きな回答をいただいたことは、2018年度の事業計画達成に対する職員への評価と、2019年度以降の奮闘に期待してのものであり、まだまだ厳しい経営状況の中で、金庫が職員に対して最大限の誠意を尽くした回答だと捉えている」等を表明しました。

単組は、①すべての要求項目について最大限の誠意ある回答を引き出すことができたこと、②基本賃金にこだわった要求主旨を理解し、有額回答を示したこと、③最低賃金や一時金の要求について、金庫が一定の理解を示し、今後の格差是正に向けた取り組みや同一労働同一賃金の対応につながることを、等から基本合意を表明しました。

*合意単組（4単組／3月27日14時現在）

長野・北海道（金庫・関連）・四国・沖縄

以 上